

主題「目的や場面、状況等に応じて、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒」の育成

1 主題設定の理由

昨年度は、ICT を活用してデジタルシンキングツール上に自分の考えや情報を整理することで、「表現豊かにコミュニケーションを図る生徒の育成」を目指してきた。成果として、発表において、相手の興味や反応に応じて、デジタルシンキングツール上のメモから必要な情報を取捨選択しながら話すことができるようになった。また、やり取りにおいては、対話の相手に質問をしながら興味のあることを引き出し、デジタルシンキングツール上のメモから相手の興味に応じて適切な情報を伝えることができるようになった。一方で、単元の目標達成に向けて、やり取りや発表の内容を発展させられなかったり既習表現を適切に用いることができなかつたりする様子が見られた。また、相手の興味のある事柄がメモに用意されていなかった際に、スムーズに発話できなかつたりやり取りを継続できなかつたりする生徒もいた。

授業構想においては、生徒がコミュニケーションを行う必要性を感じられる目的や場面、状況等を、単元目標に位置付けることが必要である。授業では、やり取りや発表、ライティング等の内容が、単元目標の達成にどの程度迫っているかを生徒に自己評価させ、適切なフィードバックを行わせることで、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒を育成することができると考えた。表現力豊かにコミュニケーションを図るとは、相手との関わりを大切にしながら「話し方」を工夫したり、既習表現を適切に用いながらやり取りや発表等の「内容」を発展させたりすることである。

以上のことから、本年度は、単元目標を基に生徒自身に「附中 Can-Do シート（単元目標の到達度合いを記述した評価基準表）」を作成させ、言語使用についてのフィードバックを行うことで、「目的や場面、状況等に応じて、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒」の育成を目指す。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための具体的な手立て

○「附中 Can-Do シート」を用いたフィードバック

教師は、単元の学習の最初に、コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確に示しながら、単元目標を提示する。生徒は、その目標を基に、「附中 Can-Do シート」を作成する（図1）。作成する際、一人一人が達成したい姿をワークシートに記入した後、学級全体で単元を通して達成したい姿について話し合い、評価基準を作成する。このシートには、単元目標の到達度を知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の観点ごとに A から C の段階を設定して表にまとめる。その際、思考・判断・表現には、「話し方」と「内容・表現」についての評価基準を設定する。「話し方」については、「相手に質問しながら会話を継続している」や「別の話題を提示したり詳しい情報を伝えたりして、会話を発展させている」といった基準を設定する。「内容・表現」については、やり取りや発表の内容、適切な既習表現の使用について記述する。生徒は、作成した附中 Can-Do シート上の記述を確認しながら、お互いのやり取りや発表等の様子を観察し、生徒同士でフィードバックを行うことで、単元の目標達成に向けて、「話し方」を工夫したり、既習表現を適切に用いながらやり取りや発表等の「内容」を発展させたりしていくことができるようにする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	これまでに学習した表現 will, be going to, when, if の接続詞を正確に用いて、話すことができる。	休日は家にいることが多いケアンが、やってみたいと思えるような「夢の休日の過ごし方」を考え、提案をひくような提案をすることができる。 【話し方】 □自分の話題やより詳しい情報を、興味をひけるように提案している 【内容・表現】 □相手の興味に応じて伝える内容を変えている。 □The going to will を適切に使っている。	休日は家にいることが多いケアンが、やってみたいと思えるような「夢の休日の過ごし方」を考え、提案をひくような提案をしようとしている。
B	will や be going to, when, if の接続詞を正確に用いて、話すことができる。	休日は家にいることが多いケアンが、やってみたいと思えるような「夢の休日の過ごし方」を考え、提案することができる。 【話し方】 □相手に質問したり、相手の発話に反応したりしながら積極的にやり取りしている 【内容・表現】 □自分なりの夢の休日の過ごし方を伝えている □The going to will を適切に使っている。	休日は家にいることが多いケアンが、やってみたいと思えるような「夢の休日の過ごし方」を考え、提案しようとしている。
C	will や be going to, when, if の接続詞を正確に用いて話すことができていない。	休日は家にいることが多いケアンが、やってみたいと思えるような「夢の休日の過ごし方」を考え、提案することができていない。 【話し方】 □一方的に話している。 □声量が小さく聞き取れない。 【内容・表現】 □休日の予定を伝えている。	休日は家にいることが多いケアンが、やってみたいと思えるような「夢の休日の過ごし方」を考え、提案しようとしていない。

〈図1 附中 Can-Do シート〉

また、書く活動を行った際、教師は、Google ドキュメントやスプレッドシートのチャット機能を活用して、生徒が書いた文章に対して、附中 Can-Do シートに記述された評価基準を基に、内容や表現が適切であるかについてフィードバックを行う。このフィードバックを受け、生徒は、記述内容を目的や場面、状況等に応じて、既習表現を適切に用いながら、文章の内容を発展させていくことができるようにする。

このように、附中 Can-Do シートを活用してフィードバックを適切に行うことで、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、既習表現等を適切に用いながら表現力豊かにコミュニケーションを図ることができるようにする。

英語科

PROGRAM I (Sunshine English Course 2)

Start of a New School Year



一体的な充実に向けた手立て

○「附中 Can-Do シート」を用いたフィードバック

<本時の目標> (8時間中の7時間目)

休日は家で過ごすことが多く暇をもて余している ALT が、やってみたいと思えるような「夢の休日」を考え、相手の興味に応じてやり取りをすることができる。

附中 Can-Do シートを活用し、生徒同士で「話し方」についてのフィードバックを行い、やり取りを継続させる。

- ・ペアで「夢の休日」についてやり取りする。
- ・附中 Can-Do シートを基に、やり取りを継続するためのポイントを確認する。
- ・再度、ペアでやり取りを行う。



附中 Can-Do シートを活用した、生徒同士のフィードバック(「話し方」について)

- 個 附中 Can-Do シートの「話し方」についての評価基準を個人で確認させることで、やり取りを継続させるためのポイントを理解することができるようにする。
- 協 やり取りの様子をお互いに観察し合い、附中 Can-Do シートを基に、「話し方」についてのフィードバックをお互いに行わせることで、やり取りを継続することができるようにする。

附中 Can-Do シートを活用し、生徒同士で「内容」についてのフィードバックを行い、やり取りの内容を発展させる。

- ・3人組になり、2人がやり取り、1人がそのやり取りを観察する。
- ・観察した生徒が、附中 Can-Do シートを基に、フィードバックを行う。
- ・フィードバックを基に、内容を発展させ、再度、やり取りを行う。



附中 Can-Do シートを活用した、生徒同士のフィードバック(「内容」について)

- 個 附中 Can-Do シートの「内容・表現」についての評価基準を個人で確認させることで、やり取りの内容を発展させるためのポイントを理解することができるようにする。
- 協 附中 Can-Do シートを基に、お互いのやり取りの内容についてフィードバックを行わせることで、目標の達成に向けてやり取りの内容を発展させることができるようにする。

附中 Can-Do シートを活用した、チャット機能でのフィードバックを通して、より適切な表現へと修正する。

- ・やり取りをした内容を書く。
- ・チャット機能で受けたフィードバックを基に、適切な表現になるように修正する。

I'm going to talk about my dream holiday plan. I'm sure that you are going to enjoy my plan. First of all I want to go to Mt. Haruna and try a sea boat at Lake Haruna. After that you are going to be lazy because we will move our body a lot!
To have outdoor lunch is good. So, I recommend BBQ is fun. It will be like an outdoor party. I'm going to play music outside. I'm sure you are going to like it. In the afternoon, we are going to climb Mt. Haruna. If you are tired, we are going to use a cable car. You will enjoy the beautiful view from the top.

健太 小野里健太
9:48 今日

健太 小野里健太
9:49 今日

1. I'm sure-は自分の思いだから...

2. お腹が減る予定?



附中 Can-Do シートを活用した、チャット機能による書いた文章へのフィードバック

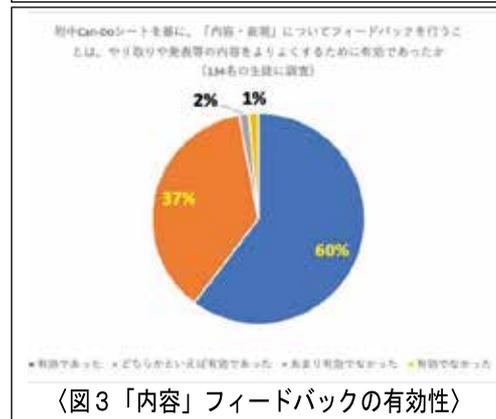
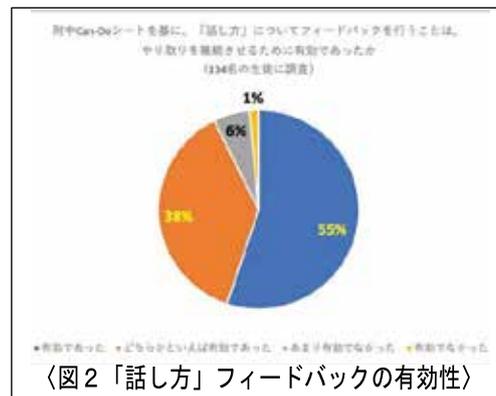
- 個 Google ドキュメントのチャット機能で、生徒が書いた英文の表現に対し、教師からのフィードバックを踏まえて、英文を修正し、既習表現等を適切に活用しながら、意見や考えを書くことができるようにする。



附中 Can-Do シートを活用してフィードバックを行うことで、やり取りを継続させたり ALT がやってみたいと思えるような「夢の休日」を相手の興味に応じて伝えられるようにやり取りの内容を発展させたりすることができた。

3 成果と課題

成果としては、生徒同士がやり取りの様子を観察し合い、「附中 Can-Do シート」を基に、「話し方」についてフィードバックを行うことは、やり取りを継続させるために有効であったかという質問に対し、有効であった、どちらかといえば有効であったと回答をした生徒は93%であった(図2)。また、「内容・表現」についてフィードバックを行うことは、単元目標の達成に向けてやり取りや発表等の内容を発展させるために有効であったかという質問に対し、有効であったと回答した生徒は60%、どちらかといえば有効であったと回答をした生徒は37%であった(図3)。ライティングでは、自身の使用した英語の表現を視覚的に確認できることから、チャット機能を用いてフィードバックを行うと、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて既習表現を適切に活用しながら表現することができるようになった(図4)。さらに、附中 Can-Do シートを生徒が作成することによって、教師が作成した単元と比べて生徒が、より主体的に学習に取り組み表現力豊かにコミュニケーションを図る様子が見られるようになった。それに加えて、附中 Can-Do シートを生徒が作成した単元では、教師が作成した単元と比較して単元テストの得点が高い傾向であった(図5)。



以上のことから、単元目標を基に生徒が作成した附中 Can-Do シートを活用して、生徒同士でフィードバックを行わせたりチャット機能を活用してフィードバックを与えたりすることは、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、表現力豊かにコミュニケーションを図る生徒の育成に有効であったといえる。

課題としては、やり取りや発表において、発話をスムーズに行うことに支障をきたした際、語彙や文法事項等の意味・用法の定着が不十分な状況が見られた。そのため、語彙や文法事項等の意味・用法を生徒が実際のコミュニケーションの場面でスムーズに活用できる段階まで、身に付けられるようにする必要があると考える。

I'm going to talk about my Dream holiday plan. I'm sure that you are going to enjoy my plan. First of all I want to go to Mt. Haruna and try a swan boat at Lake Haruna. After that you are going to be hungry because we will move our body a lot! To have outdoor lunch is good. So, I recommend BBQ. BBQ is fun. It will be like an outdoor party. I'm going to play music outside. I'm sure you are going to like it. In the afternoon, we are going to climb Mt. Haruna. If you are tired, we are going to use a cable car. You will enjoy the beautiful view from the top.

I'm going to talk about my Dream holiday plan. I'm sure that you will enjoy my plan. First of all I went to Mt. Haruna and try a swan boat at Lake Haruna. After that you will be hungry because we will move our body a lot! To have outdoor lunch is good. So I recommend BBQ. BBQ is fun. It will be like an outdoor party. I'm going to play music outside. I'm sure you will like it. In the afternoon, we are going to climb Mt. Haruna. If you are tired,

〈図4 既習表現の適切な使用〉

【1年次(2学期～3学期)】 附中Can-Doシート使用部

単元	Program 5	Program 6	Program 7	Program 8	Program 9
観点	知・技	知・技	知・技	知・技	知・技
平均点	66.5	72.4	59.3	64.2	77.7
				70.5	73.2
				79.1	72.2
					78.8

【2年次(1学期)】 附中Can-Doシート使用部

単元	Program 1	Program 2	Program 3
観点	知・技	知・技	知・技
平均点	83.1	79.6	89.4
			85.5
			88.7
			85.3

〈図5 令和4年度入学生 英語科単元テスト平均点一覧〉

4 今後の展望

表現を実際のやり取りや発表の中でどのように使用するのかを明示しながら繰り返し発音練習させる良質なインプットと、表現をやり取りや発表などの実際のコミュニケーションの場面で繰り返し使用させる良質なアウトプットをバランスよく授業に取り入れていくことで、語彙や表現等を確実に身に付けさせ、スムーズに発話できる力を身に付けさせたい。

<参考文献>

群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
 小泉利恵 (編著) (2022) 『実例でわかる英語スピーキングテスト作成ガイド』 大修館書店
 国立教育政策研究所 (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校英語』 東洋館出版
 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂出版